

これからの保健所建築

— 建築家と公衆衛生の専門家による連携 —

我が国の保健所は、第二次大戦後 GHQ の指導のもと公衆衛生対策の現場第一線機関として大活躍しましたが、近年、行政改革の流れの中でその数は減少しています。ただし、自然災害が起きた地域の公衆衛生の拠点としての役割を担う重要な建築であることに変わりありません。また新型コロナウイルス感染症により、感染症の第一線機関であることが改めて浮き彫りになりました。そこで私たちは、日常と災害時双方の課題を解決する「これからの保健所」建築を建築家3名に計画いただき、建築家および公衆衛生の専門家との意見交換の機会を設けました。本展示では「これからの保健所」建築の計画案とともに、意見交換会の様子を公開します。

提案建築家

宮本佳明 (宮本佳明建築設計事務所)

前田茂樹 (ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ)

堀 賢太 (堀賢太建築設計事務所)

コーディネート

小林健治・木多彩子・池内淳子 (摂南大学理工学部建築学科)



会場：建築会館ギャラリー

最寄駅：JR 田町駅 都営地下鉄三田駅
(〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号)

会期：2022年8月14日(日) >> 16日(火) 9:00-17:00 (16日のみ14:00迄)

入場無料

本展示は2021年11月14日(日)に開催したシンポジウム「日常と災害時をシームレスにつなぐ新しい保健所建築」をもとに展示構成したものである(シンポジウムの概要は右記QRコードより視聴可能)。



展示内容の一部は科学研究費基盤C(課題番号20K05035)「災害時拠点機能と日常の「居場所」機能を有する保健所を計画する為の客観的指標の提案」研究代表者:小林健治によるものである。